

**図録「見つけよう自然のなかま」
—ならやまの昆虫と植物たち—
表紙デザイン募集に 97 作品**

鈴木 末一

ならやまプロジェクトに伴い、当会が収集した植物や昆虫に関するデータを子供向け図録に残そうとの編集活動が続けられていますが、その表紙のデザインは小学生を対象に公募されました。優秀作品がこのほど選ばれ、1月19日、奈良市中部公民館で、恒例の新春講演会に先立って表彰式が行われました。

昔の「ならやま」は、のどかな環境に多くの動植物が生息していました。その恵みを四季折々に授かりながら、私たちは生活していたのです。しかし、半世紀以上にわたる「凍結保存」により、荒涼、殺伐とした情景に変わり果てていました。

当会は2007年4月から奈良県との協定により、「ならやま里山林景観形成整備ボランティア活動」に取り組み始めました。苦節12年。その間に集積してきた昆虫や植物のデータが、膨大なものになってきました。昆虫で600種、植物で200種以上にも達します。そのような貴重な知的財産を、埋もれたままにしておくには忍びないとの思いを強くしていました。

昨年5月から6月にかけて、各種助成金についての情報を収集していたところ、トヨタ自動車株式会社が、環境活動助成プログラムの中で、「国内小規模プロジェクト」を募集していました。基本理念として、21世紀が真に豊かな社会として持続的に発展していくためには、環境と人間の活動との調和が不可欠であり、次の世代に対して豊かな地球を引き継ぐ責任があることを認識し、人類共通の課題である環境問題の解決にあたっていかなければならない、と提唱していました。このことを受け止めて、「全ては次世代の子どもたちのために」というモットーで、類い稀であろう知的財産を図録として編纂し、自然環境教育での生きた教材として活用したいと、助成を申請しました。

7月31日、待ち焦がれていた第一次選考を通過。10月末に本選考の結果発表という段取りとなりました。

一次選考通過の吉報を受けてから10月末までの間、手をこまぬいて待ち続けるよりも、図録編集準備委員会を立ち上げることに踏み切りました。

11名の委員を委嘱し、経験と知識を活かし、コンセプト、編集要領、ページ立てなどについて協議を重ねた結果、昆虫編は菊川年明さん、植物編は木村裕さんと西谷範子さんが中心となってデータの作成を担当することになりました。

次に、表紙に子どもの夢を乗せようと、デザインを公募することになり、会員のお孫さんと奈良市立佐保台小学校の児童に呼びかけました。

10月末、トヨタ環境財団から本選考の結果、助成が決定した旨のビッグな知らせがあり、一層委員会が活気づきました。

11月末までに97点の作品の応募がありました。自然と人間との関わりを感じさせる力作揃いです。編集委員会で一次選考をして20数点を選び、奈良市教育協議会図画工作部会の先生方に本選考をお願いしました。その結果は次の通りです。



- 最優秀賞：中川美登里さん
- 優秀賞：畑山時也君
- 優秀賞：長谷川葵さん
- 佳作：中野泰志君
- 佳作：田中涼太君



▲中川さんの最優秀賞作品

最優秀賞を受賞し、作品が表紙を飾ることになった中川美登里さんは、表彰式で「自然が好きなので、一生懸命描きました」と、やや頬を紅潮させながら、受賞の喜びを話してくれました。